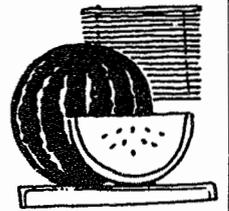


まめなかの

発行
西郷町城北町
隠岐病院長



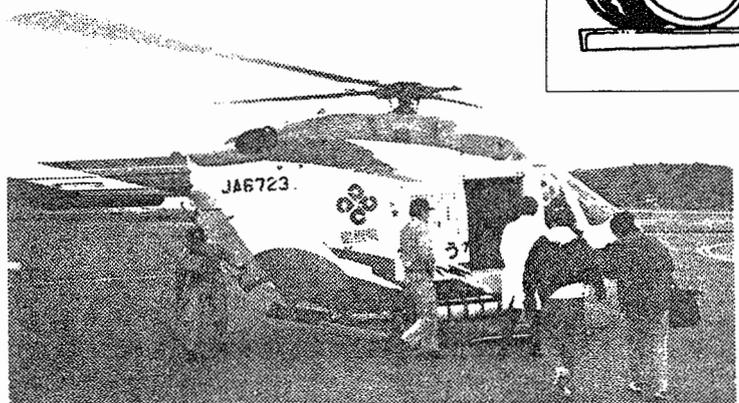
ドクターヘリで より安心!

二年前の出来事でした。ある小児科患者さんの状態が非常に悪くなり、深夜本土の病院へ搬送することになりました。事態は逼迫、ヘリコプターで搬送中にも容態が悪化する可能性があり、小児科医師が同乗する必要がありました。ヘリコプターはどうか本土の病院へたどり着き、患者さんも無事収容されたのです。めでたし、めでたし。時計を見ると午前三時三十分。小児科医師はつばやきました。「五時間後には、病院へ帰って外来をしなければ...。」

七時のレインボーに間に合いそうだ...。」どうにか、九時前に病院へ到着、眠い目をこすりながらも何事もなかったかの様に普段通り外来を始めたのでした。

こんな話も今は昔のこととなりました。今年の四月から県の事業として救急患者緊急搬送モデル事業(通称ドクターヘリ)が実施され、隠岐病院の医師が本土まで同乗する必要がなくなりました。

ドクターヘリとは、県の防災ヘリコプターに本土の病院の医師が同乗し、迎えに来てくれるシステムです。実際には松江赤十字病院へ搬送する場合は赤十字病院の医師が、他の医療施設へ搬送する場合は県立中央病院の医師がやって



写真は島根県防災ヘリ「はくちょう」

きます。

ドクターヘリの利点として、

- ①必要に応じて搬送対象疾患に対する専門医師がやってくる
- ②隠岐病院の医師が当日もしくは翌日の診療に支障を来たすことなく、緊急搬送ができるようになった。
- ③同乗医師の交通・宿泊費などを患者さんが負担する必要がなくなった。(県側負担)

などがあげられます。

いきなり「ドクターヘリ」

ドクターヘリは多くの人の協力によって運営されるもので、緊急性が高く、限定された場合にしか要請する事ができませんが、ドクターヘリのおかげで今まで以上に安心して緊急搬送することが可能となりました。

できることならだれもがドクターヘリに乗るような病气、怪我に出会うことがない様にしたいものですネ!

ドクター K
□□□□□□□□□□□□□□□□

「屋号はわからないうです。」 編



内科と食中毒について



内科部長 原 克之

「内科」とは何か？内科医は、患者さんの身体を「外」から診察・検査・治療します。最近、内視鏡やCTなどが多用されるようになり、幾分は体の内側を覗くようになってきました。やはり我々内科医は、主に体の外から得られた情報をたよりに仕事をしています。一方「外科」はどうかと言え、人間の腹を開いて「内」から治療しているのです。この「内科医は外から治し外科医は内から治す」という落語のようなお話しに悩み始めると夜も寝られなくなってしまうので、この辺でやめておきましょう。

さて、宮崎副院長が退職されたので、当院の内科は、小出・数森・大西・原の、医師四人体制で再スタートしました。内科の患者さんはこの四人のうちの誰かが必ず主治医となります。四人ともに内科疾患を幅広く担当しています。何でも診ますので気になる事

があったらどんどん聞いてください。とは言っても、各医師は各々専門をもってしますので少し紹介しておきましょう。小出医師は神経内科が専門で、脳卒中や目眩が得意です。数森医師は消化器内科が専門で、胃腸や肝胆膵を担当（内視鏡の名人です）で、大西医師は循環器内科が専門で、心筋梗塞や不整脈などを担当します。そして私、原は呼吸器疾患を担当し、肺炎や結核の治療に苦労しております。そして我々内科医にとって忘れてはならないのが、内科外来・内視鏡室・内科病棟の看護婦さん達です！看護婦さん達に吐られながら（おっと失礼！暖かく支えられながら）日々の診療に当たっています。

内科医の一日を紹介しますと、毎朝八時三十分診療開始前より出勤し、まず病棟へ上がって入院患者さんの容態を診る、夜中に緊急入院した患者さんの主治医を決め

て治療計画を立て直す、深夜勤務で疲れた看護婦さんの労をねぎらう。そして、八時三十分には何事もなかったかのような顔で内科外来の診療を始める者、胃カメラなどの検査に入る者、五箇診療所の外来に出かける者、と散り散りになって午前中を過ごします。昼休みがとれば昼食を摂り、時間がなければ飯も喰わずに午後の検査や病棟の診療、診療所の外来に飛び込み、夕方までに仕事が一段落すればよし、もし重症患者があれば夜中まで働く…。という具合で暮らしております。

さて話を交えて、時節から食中毒のお話しを少々。「食中毒」は昔から毎年、特にこの時期に起こりやすい病気です。昨年から病原性大腸菌（特にO1157）騒動で「食中毒」が古くて新しい病気として注目される様になりました。食中毒の原因となる細菌は、O1157だけでなく、サルモネラ菌・腸炎ビブリオ菌・ブドウ球菌・ポツリヌス菌など色々

な種類があります。そして原因菌により、症状・発症時間・重症度・治療・予防策などが異なってきますが、共通して言えることは次のとおりです。

- 調理の前に十分手を洗う。
- まな板などの調理具の清潔を保つ。
- 新鮮な材料を使う。
- 調理後は早く食べる（冷蔵庫を過信しない）。
- 食べる前にも十分手を洗う。
- 嘔吐や下痢などの症状があれば早めに受診する。

これが基本です。難しいことを勉強したり、O1157だけを必要以上に怖がりしたりしないで、冷静に自分と家族を守るうではありませんか。

平成9年7月1日からの内科の診療は下記のとおりです。

内科外来診療表

	月	火	水	木	金
①新患・診急患	小出	原	数森	大西	原
②(再診)	大西		原		大西
③(再診)	原	数森	小出	数森	小出
神(午後)経(内科)				小出	

職場紹介

〜医事課編〜



毎日、受付カウンターに立っていると「医事課はどこですか?」とよく訪ねられますが、病院正面玄関を入ってすぐ右側にあります。(受付カウンターも医事課の一部です)

スタッフは池田有秀課長以下十一名で、主な業務は、受付対応・計算・会計・未収金処理など、皆さんに馴染みの深いものや、その他にも入院会計・自賠責・労災・保険請求業務、といった様々な業



スタッフでパチリ!

務を行っております。その中で保険請求業務に関して少し説明させていただきます。保険請求業務とは、例えば、ある企業で働いている方が保険医療機関(病院など)にかかったとします。患者さんは負担割合の一分割を会計で支払いますが、残りの九割分の医療費はどうするの...?

そうです、この残りの部分を支払基金に請求することが、保険請求業務というものです。普段、皆さんには馴染みの薄い、こういった業務も我々医事課の仕事なのです。この度の医療保険制度改革関連法の成立により、社会保険加入者本人の、窓口での支払額が増えること(一割が二割負担)になりましので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

次に外来診察の待ち時間についてですが、医師の診察にかかる時間は削ることのできないものがあり、それ以外(計算・会計など)の部門において短縮をはかろうと努力しております。今年度中には医事課コンピュータの更新に伴い、「再来

自動受付機」・「カルテ自動検索機」などを導入計画しており、待ち時間の短縮をはかる予定です。何はともあれ、医師・看護婦様に、患者さんに接することの多い職場ですので、言葉使いや態度など、対応にご不満はあろうかと思いますが、どうしたら今までの上のサービスができるのか?また、どうしたら待ち時間が短縮できるのかを医事課職員全員が試行錯誤している状況であります。こんな

医事課ではありませんが、自分達の仕事も医療の一部であるという認識のもと頑張っていきたいと考えております。

スタッフ W



心疾患の赤ちゃん頑張った

順調に回復、無事退院

島根医大

世帯主の病状が重なり、2003年12月、島根県立島根病院で生まれた1000g未満の赤ちゃんが、心臓病を患い、入院した。現在は順調に回復し、無事退院した。



島根医大の心臓病専門医、池田有秀先生。この赤ちゃんは、心臓病を患い、入院した。現在は順調に回復し、無事退院した。

この記事に掲載されている羽根田助教は、十年以上前より当院にも来ていただいております。特殊小児科外来として、年三回ではあります。心臓疾患をもつ子供達の診察や検査などを、夜遅くまで熱心にとめて優しく取り組んで下さっています。

この記事を読み、「コイル法」という画期的なカテーテル治療法があること、そして、治療を受けた子供が、僅か千二百gの低出生体重児だったことに驚くとともに世界でも例のないこの治療を行っている有名な医師が当院に来て下さっていることを嬉しく思いました。

資料提供：山陰中央新報 (5/9)

やっぱりいいね!



五月二十九日、やっと念願かなって、二階東トイレが新しく完成いたしました。今まで二階には、車イスで入れる様な広いスペースのトイレがハビリー室の所だけのため、遠くまで行かなければなりませんでした。今回ウォッシュレット式トイレが設置されたことにより、痔の患者さんの排便後のおしり洗浄もとても楽になりました。

二階病棟は産婦人科患者(妊婦)さんや、お年寄りの方・整形外科患者さんも多く、車イス・歩行器・松葉杖でも使用できる、段差のない、広いトイレが必要でした。今では皆さん喜んで使用されています。

患者さんからの感想を一言!

- 一、広がってきれい、段差がないのもいいです。
- 二、点滴をしている時、点滴を掛ける所がないので不便↓点滴掛けをつけました。
- 三、手洗い場にクリンドライも付いて大きな鏡も見やすい。
- 四、清潔感もあるし明るい。など

センサーによる自動水洗やクリンドライも設置されており、洋式トイレが二カ所・和式トイレが一カ所・男子専用トイレが二カ所あります。手すりもしっかりしていて大変使い易いトイレです。評判を聞いて、他の階の患者さんにもご利用いただいています。

二階へお越しの際は皆さんも是非一度、お試し下さい。

ウキウキ看護婦 T



これからも輝いて

隠岐病院離任のご挨拶

副院長 宮崎 忠顯

「輝く」という言葉は、私の好きな言葉の一つです。昭和五十一年に新築移転したばかりの、まぶしく輝く病院が、私の隠岐病院の原点です。この隠岐病院と一緒に私も輝きたくて、平成六年に隠岐へ参りました。

思いに反して、色々な方々から「隠岐病院は...」と言われ、隠岐の医療に様々な問題点があることが判りました。三年余り、初めは一内科医として、そのうち副院長として、「コンセプト」「スタンス」など横文字を持ち込んで、「?...」と言われながらも、皆様とともに少しは改善してきたつもりです。思うようにならなかったこともありました。最後に「まめなかの」が大きく輝きました。四国に帰っても、隠岐病院の思い出とともに私自身輝いていきたいと思えます。

隠岐の皆様、隠岐病院の皆様、本当にお世話になりました。また遊びに参ります。

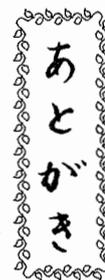


異動

退職

*宮崎 忠顯 (副院長)

↓井出病院 (四国)へ



最近、「まめなかの」読んでるよ!とか、「がんばって」と声をかけて頂いたり、先日は、偏差値重視の進路指導に疑問をもっておられるお母さんより、「第五号のこの人知ってるコーナーはともよい企画でした(中略):村上山さんのような方を広く知り、社会には色々な人がいるという事を知ることが、子供達や地域の人の目を開いていく事になると思います。タイムリーな記事がありがとうございました。ますますのご発展を!」と激励のハガキを頂きました。編集委員一同励みとし、さらに頑張っていきたいと思えます。色々なご意見をお待ちしております。

はじめとした梅雨から夏にかけてのこの季節、食中毒に気を付けて、心も身体もカビぬよう、まめでたっしやで次号まで!

結婚5日前のワウ!S